

中央大学支部 中大技術士会

ニュースレターvol.23

会員の皆様へ

梅雨と言えば、本来「しとしと」の長雨ですが、今年の関東地方は、激しい雷雨が多いです。これも異常気象でしょうか。さて、皆様いかがおすごでしょうか。

このニュースレターは、会員相互の情報交換を目的に、会の活動内容や会員個人の様々な活動などについてお知らせするものです。本号では2014年1月～6月の活動内容、第10回定時総会のご報告、今後の活動計画のほか会員のエッセイ、受験合格体験談などをお届けします。

当会では、中央大学理工学部 of 全学科を対象として「技術士ガイダンス」を実施し、学生の皆さんに技術士への第一歩としての技術士一次試験受験を勧めています。その成果は確実に表れて始めています。

おかげさまで卒業生はもちろんのこと、最近は現役学生の一次試験合格者の会員も増え、当会の活動は年々活発になっています。会の活動は、会員の皆様によって成り立っています。是非、ご参加ください。それではニュースレターをお楽しみください。

内 容	ページ
巻頭言	2 ページ
「中大技術士会の会長に就任して」：中大技術士会 会長 内藤 堅	2 ページ
会長退任のご挨拶	3 ページ
■ 「中大技術士会会長退任の挨拶」：中大技術士会 名誉顧問 金川 護	3 ページ
活動報告	4 ページ
■ 第10回通常総会・記念講演会	4 ページ
■ 技術士第一次試験ガイダンス	7 ページ
■ 幹事会	8 ページ
■ 部会報告	9 ページ
■ CO2 環境対策技術研究会	12 ページ
活動計画	12 ページ
■ 全般の活動計画	12 ページ
■ CO2 環境対策技術研究会活動計画	13 ページ
■ 各学科との協力事項（都市環境学科、國生教授）ソーラーセル帆走筏の研究	13 ページ
エッセイ	14 ページ
■ 「町工場社長の技術士取得奮闘記」：小柳拓央さん（金属・総監部門）	14 ページ
技術士第二次試験合格者から	16 ページ
■ 「受験体験記」：小田部信彦さん（電気・電子部門）	16 ページ
技術士第一次試験合格者から	17 ページ
■ 「技術士第一次試験を受験して」：出雲 沙織さん（化学部門）	17 ページ

■ 「中大技術士会の会長に就任して」：中大技術士会 会長 内藤 堅一（建設部門、総合技術監理部門）

5月31日の総会で会長に就任することになりました。前任の金川護会長が10周年を機会に勇退したいとの表明が今年3月の幹事会であり、同時に次期会長を私にお願いしたいという発議があり、幹事会で承認されたのが最初です。金川さんは中大技術士会の前身の白門技術士会の立ち上げ時から参画され、現在まで正に中大技術士会の活動を引っ張ってこられました。私は草創期の活動には参加していませんでしたが、いつのまにか副会長を仰せつかり、今度は会長におされました。非常に大役ですが、三役はじめ多くの幹事の皆さんの協力を得られるならばとお引き受けしました。



中大技術士会も10年間の活動の中で理工学部先生方との共同研究や技術者倫理の授業への兼任講師の派遣という形で大学との関係を深めると共に、講演会やCO2環境対策技術研究会の独自の活動、学会各支部との連携等活動の場が広がってきました。私の役目はこれらを継承すると共に更に発展させ、中大技術士会の会員の皆さんと活動の輪を広げていくことだと思っています。

多くの幹事の方々が、いろいろな役割を分担して活動しています。これを会員の方が見えるようにという思いで、会則にはない主査という形でそれぞれ担当いただく事項を明確にした人事案を、5月31日の総会で報告させていただきました。今後はこれをホームページに掲載して、どんな活動を誰がしているのかが分かるようにします。

広報の場が、ホームページとメーリングリストです。会員の異動も多く、これの管理も大変ですが、だんだん整ってきています。まず会員に新しい情報を届け、関心を持ったものがあれば積極的に参加して頂くというのが基本と考えています。CO2環境対策技術研究会やテクノロジー懇談会など多くの会員の方々に参加して頂きたいと思います。大学の先生や、学生、社会人の交流の場が出来つつあります。技術士は日常の業務に加え、いろいろ知見を深め、研鑽をする必要があります。その一つが中大技術士会でありたいと思いますし、活用して頂ければと思います。

学会の法曹会や公認会計士会との連携もだんだん進んできました。弁護士との意見交換や交流等関係も深まってきました。具体的な業務を一緒に出来るようになることが最終目標です。大学技術士連合会での牽引役としての中大技術士会の役割も高まっています。

一方で、中大技術士会の活動は、多方面にわたっていますが、これが一般会員に見えないために活動に加わる機会を提供できていないのではという危惧を持っています。

前にも巻頭言で提案しましたが、ホームページとメールに加え、具体的に活動内容が見える場としての「中大技術士会報告会」の開催を提案します。総会の時に中央大学の先生方に講演をしていただき、活動報告を聞くのが慣例になっていますが、活動報告の形を変えるか、単独開催で実際にどんなことをやっているのか、どのように活動に参加できるのかなどを含めて講演形式で話を伝え、理解を深めていただき、参加してみようかなと思っていただくのが良いのではと考えます。一緒に活動する仲間を増やせるような試みをして行きたいと思っています。

以上

■ 「中大技術士会会長退任の挨拶」：金川 護 （上下水道部門・総合技術監理部門）

私は中大に技術士会の技の字も無い頃から、まさに真っ白な紙に最初の技の字を書いたものです。平成13年に白門35会幹事会で白川会長から頼まれて、私が「環境(水処理)について」と云う題で講演をしました。



そこで当時中大常任理事の三宅邦彦さんから、「中大理工学部に力を貸して欲しい」と頼まれました。35会は35年卒業の学員会支部ですが、殆ど法、経、商の卒業生で理工系出身は白川会長と私あと二、三人だけでしたので、理工学部出身者として頼もしく見えたのでしょう。その1年後に35会の旅行会で再び顔を合wash、なんとなく中大の技術士会を作る話をし、中大出身の技術士は何人位居るのかが話題になり、調べることになり、中大事務局から人を出して頂き、日本技術士会で何十冊もある全会員の業務経歴書を見せて頂き、そこから中大出身者の名前を拾い出し、名簿を作りました。

160名分の名簿を見た三宅さんは人数が多いのに驚き、白門技術士会を作ろうと意見が一致しました。そこで、上下水道部会の幹事会で良く知った鈴木薫さんに相談したところ、即座に賛成され、そこから白門技術士会立上げが始まりました。白門技術士会設立準備委員会を立ち上げ、平成16年6月には白門技術士会が発足しました。会長は金川、幹事長は鈴木さんでした。

白門技術士会立上げの話が出てから12年経ち、平成26年5月31日で私は初代会長から退任し、副会長の内藤堅一さんが新会長となりました。この間幹事長は鈴木さんから林知幸さんに代わりました。創設以来の副会長は藤森公彦さんだけで他の副会長は途中交代してきました。

平成23年に白門技術士会から中大学員会支部に昇格し、その時に名称も中大技術士会に変更しました。この10年で中大技術士会は中大理工学部や中大法曹会等の学員会支部との連携も進んできました。その内容は創立10周年記念誌に詳しく記されております。今後も理工学部の先生方と研究会を立ち上げたり、企業を呼び込んで共同研究を進めて頂きたいと思っています。また、多くの学生が技術士第一次試験を受け、合格者数日本一になることを願っています。

今後中大技術士会として、私の出来なかった**3つの事をお願いしたい**と思います。

①大学と企業の共同研究の際、契約書にアドバイザーとして中大技術士会を入れて頂く。

現状は中大技術士会が介在した共同研究でも中大の規則に無いと云うことで、入れてもらえません。今後企業との共同研究は増えるので、規則を変えて頂く努力が必要です。

②大学の先生と共同で出した特許に中大技術士会担当者の名前を入れて頂く。

中大が出す特許は大学教員と職員に限られています。兼任講師・客員研究員は大学の身内とみなされておりますが、中大技術士会会員はみなされません。共同出願人になるには少なくとも客員研究員になっている必要があります。今後中大技術士会会員が関与する特許は増えて行きます。中大技術士会会員も共同出願人として認める規則の変更をお願いします。

③昨年、中大理工学部の大学院生から、初めてベンチャービジネスの立ち上げが出て来ました。

先生や学生がベンチャーを立ち上げると大学は活性化されます。中大理工学部をベンチャーの拠点に出来ればと思います。しかし、中大にはベンチャービジネス支援の仕組みがありません。大学、卒業生(例えば南甲クラブ)と中大技術士会が先生方と組んで支援組織を立ち上げられたら良いな。と思っています。

私は名誉顧問となりましたが、今後も幹事会等の行事には出席します。優秀な技術士の皆さんが更に中大技術士会を盛り上げ、中央大学理工学部の名声を高めることを切に願っております。今まで、行動力抜群の幹事長、目配り気配りのきく副会長、献身的な幹事の皆様、理工学部の先生方のお蔭で 10 年間と云う長い間、会長を務めることが出来ました。本当にありがとうございました。

以上

活動報告

■ 第 10 回通常総会

中大技術士会第 10 回定時総会を下記日程で開催しました。

日 時：2014 年 5 月 31 日 13：45 開場 14：00 開会

場 所：中央大学理工学部後楽園キャンパス 3108 号教室

出 席：52 名

内 容：

12:30～13:30 技術士二次試験ガイダンス

14:00～15:00 通常総会

15:30～17:00 特別講演

17:30～19:30 交流会（5 号館地下の学生食堂にて）

1) 技術士二次試験ガイダンス

総会に先立ち、技術士 2 次試験対策ガイダンスを行いました。（参加者 14 名）

民間企業の技術士受験セミナー主催者でもある坂林幹事から、試験の概要、日頃の勉強方法、具体的な試験対策方法の説明がありました。

（写真 1.）

受講された方から活発な質疑もあり、受講した方々から「受講して良かった。是非、継続的なサポート体制をお願いしたい。」「試験に合格して、技術士として中大 OB の方々とのネットワークを広げたい。」「自分の専門部門の先輩を紹介してほしい。」等という感想を頂きました。

今後は、中大技術士会の会員に対して指導可能な技術士の紹介など、受験支援サポート体制を整えて行きたいと思います。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



写真 1. 坂林幹事による二次試験ガイダンス

2) 通常総会

通常総会本会では、議事に先立ち、金川会長より開会の挨拶を頂きました。（写真 2）その際、中大技術士会創設 10 年の思いを語られ、この 10 年を節目として会長を退任し、後任に現副会長の内藤氏を会長に推す旨を述べられました。その後、議長に藤森副会長、議事録署名人に中尾幹事、坂林幹事を選出、議事の審議に入りました。（写真 3）



写真2. 金川会長の挨拶



写真3. 総会会場の様子

以下の各議案を審議し、すべての議案が承認されました。

議 題

第1号議案	平成25年度活動報告(案)に関する件	各担当幹事
第2号議案	平成26年度活動計画(案)に関する件	各担当幹事
第3号議案	平成25年度収支決算(案)に関する件	事務局
第4号議案	平成26年度収支予算(案)に関する件	事務局
第5号議案	会則変更に関する件	事務局
第6号議案	補充幹事承認に関する件	事務局

議案審議の後は、林幹事長の事務局報告、各部会の長による活動の報告がありました。
また、議案5、6の承認に伴い、内藤新会長より、幹事の新体制の報告がありました。
以下に新体制を記します。

中大技術士会新三役等体制

- 名誉顧問：金川 護
- 会 長：内藤 堅一

- 副会長：藤森 公彦 大学支援部会長
 - 主査：中尾 愛人（「科学技術と倫理」「技術者倫理」担当）
 - 主査：坂林 和重（技術士ガイダンス担当）
 - 主査：鈴木 薫 （大技連担当）
 - 主査：佐藤 儀一（大技連担当）
- 副会長：小林 進 広報部会長
 - 主査：伊藤 俊郎（ニューレター担当）
- 副会長：武安 真児 企画部会長
 - 主査：國島 旭 （テクノロジー懇談会担当）
- 幹事長：林 知幸 総務部会長
 - 主査：志田 俊一（名簿管理担当）
- CO2 環境対策技術研究会幹事長：内藤 堅一
- 筏プロジェクト幹事長 ：中尾 愛人

3) 特別講演

総会終了後、特別講演を行いました。

演者、演題、概要は以下の通りです。

演 者 中央大学理工学部経営システム工学科 加藤俊一教授（ご専門は、感性工学）

演 題 「人間の感性を測る ～ 人の多様性と生活を楽しむ技」

概要（講演会 受講証明書 CPD 向けより、抜粋）

人それぞれ、顔が違いうように、趣味・嗜好、考え方・価値観、行動・態度も人それぞれに同じとは限らない。そのような現象は、個人と個人の間だけでなく、異なった年齢層や異なった文化圏の間にも見つけることができる。このような現象を感性的多様性と呼ぶことにする。

地球環境に配慮した暮らしを実現するためには、産業の側も、画一的なモノ作り・大量生産的なビジネススタイルから、特定の消費者のセグメント、さらには、個々の顧客利用者をターゲットにしたモノ作り・サービス提供に移行する必要がある。そのためには、感性的多様性の数理的なモデル化とその応用技術が必須となる。

我々は、人間を「自律的に、かつ、環境との相互作用をしながら行動する情報システム」ととらえ、ロボットの設計になぞらえて、人間の感性的多様化を分析・モデル化する技術を開発してきた。これにより、例えば、知覚感性のモデル化により、ある個人やある消費者に好まれるモノを選び、また、設計・デザインすることが可能となる。また、日常生活やショッピングセンター内での行動履歴のモデル化により、嗜好を推定し、また、タイムリーにツボにはまったコト（情報サービス）を提供することも可能となる。

さらに、近い将来、センスの良い人やファッションコーディネートに生かすことになることも可能になると思います。



写真 4. 加藤教授による講演の様子



写真 5. 加藤教授の研究室での実演の様子

加藤教授は、感性工学を分かりやすく、次のように説明されていました。

「正しい情報であっても、無数の情報が存在するネット上では、その情報はゴミとなって埋もれてしまう。個人にとって、ある情報が有益なものであっても、他人にとっては、有益であるとは限らない。具体的にグーグル検索で、単に「水」と検索すると1億以上ヒットする。小学生が知りたい「水」の検索結果と、研究者が知りたい検索結果とでは、実際、欲しい情報が異なる。これが多様性であり、それぞれの人（個性・行動履歴など）に合わせて、検索結果を提供するのも感性工学の役割の1つである。」

また、講演では、人間の嗜好をモデル化して画像の検索結果を、欲しい情報に沿うように提供する事例や、衣料品店での棚に Web カメラを搭載して、個人の嗜好を分析する事例などの紹介がありました。

今回の講演は、感性工学が社会とどのようにかわるか、将来動向も含め、身近に感じることができました。

4) 懇親会

17時半より、会場を5号館地下に移動し、学員会本部、法曹会、公認会計士会、南甲クラブ、他大学技術士会など多くの来賓の方々や理工学部長を始めとする各学科の先生方のご出席を頂き「懇親会」を盛大に挙行了しました。懇親会のメには「惜別の歌」を合唱し、お開きとなりました。



写真6. 内藤新会長の挨拶の様子



写真7. お開き前には「惜別の歌」を合唱

■ 平成26年度、技術士第一次試験ガイダンス

中大技術士会の主要活動の1つに技術士ガイダンスがあります。技術士ガイダンスでは、現役学生に技術士第一次試験の受験を薦めており、当初1、2学科から始まったガイダンスは、年々規模を拡大しています。その成果もあって、昨年、平成25年度の中央大学現役学生における技術士第一次試験の合格者数は、36名となり、全国の大学の中で第3位となりました。

本年のガイダンスは、技術士第一次試験の受験願書申込中の6月に主に行い、ついに全学科対象となりました。ガイダンスの内容は、技術士による技術士制度の説明、社会に出てからの活用事例のほか、現役で第一次試験に合格した学生の経験談などもあり、学生には勉強法や難易度などもイメージしやすくすることを心がけています。

今回、申込書の配布数も昨年の1,100部を超える1,300部となり、多くの現役学生の受験が期待されます。また、実際に技術士第一次試験を受験する学生に対し、選択科目のアンケートを取り、中大技術士会として、9月に模擬試験を実施する計画です。



写真8. 技術士ガイダンスの様子



写真9. 準備した申込書の光景

■ 幹事会

本会では概ね月に1度幹事会を行い、各行事の計画や方針などについて話し合っています。通常、中央大学駿河台記念会館の学員会会議室、または後樂園キャンパスで行います。役員、幹事以外の会員の皆様にも参加していただけます。下記に幹事会の内容を報告します。

行事名	開催日程	活動概要
平成25年度 第6回幹事会	12月16日(月) 18:30~20:00	・(1)総務部会から、①技術士第一次試験「適性科目」の出題に関して、大学技術士会連絡協議会名で日本技術士会に意見書を提出した。②学員時報に年賀広告をCO₂環境対策技術研究会と連名で出す。③本日より、佐伯博之氏が新幹事として参加した。 ・(2)広報部会から、①サーバーの更新手続きが完了した。②ニュースレターvol21 来年1月発行予定。③10周年記念号について、素案が提案された。課題はスポンサー探しである。 ・(3)企画部会から、①25年度第3回講演会を都市環境学科國生先生を招いて開催予定、②法曹会との交歓会を12月2日実施。中大技術士会13名、法曹会12名、公認会計士会2名参加。 ・(4)大学支援部会から、①「科学技術と倫理」講義に、武安幹事、國島幹事が講義を行う。 ・「CO₂環境対策技術研究会」から、①1月23日JT宇都宮工場で研究会を行う。②次回の研究会を4月東芝のCO₂技術の講演を予定する。 ・各学科の先生方との協力事項について経過報告があった。
平成25年度 第7回幹事会	2月10日(月) 18:30~20:00	・(1)総務部会から、①ニュースレター特集号の制作費見積を4社とった。業者によって倍、半額の開きがある。②一次試験合格者について、小林副会長、志田幹事に資料を渡す。 ・(2)企画部会から、①國生先生の講演会は総合的に2000円の赤字であった。②10周年特別講演を人間総合理工学科石川先生に依頼している。 ・(3)広報部会から、①ニュースレターvol.21の進捗状況が報告された。②特集号は3月20日原稿締め切りで進めている。関係者は期日厳守のこと。 ・(4)大学支援部会から、①坂林幹事から「二次試験ガイダンス案内」をHPに掲載する。 ・「CO₂環境対策技術研究会」から、①1月23日、JT北関東工場で行った。②第19回研究会を平成26年4月18日、東芝電力システム社鈴木健介氏を招いて実施する。 ・各学科の先生方の協力事項について報告があった。 ・テクノロジー懇談会は期末試験、入学試験等で4月以降実施する。 ・学生企業選手権大会で電気電子情報通信学科の学生がグランプリを獲得した。当会は側面支援していく。
平成25年度 第8回幹事会	3月14日(金) 18:30~20:00	・(1)総務部会から、①技術士第二次試験合格者が発表された。中大出身者の合格は50名であった。②芝浦工大から技術士ガイダンスの案内がきている。 ・(2)広報部会から、①サーバーに、ニュースレターvol21と二次試験ガイダンスを掲載した。②ニュースレター記念

行事名	開催日程	活動概要
		号の予定が示された。③会員の移動について整理した ・(3)企画部会からの報告事項はない。 ・「CO₂環境対策技術研究会」から、①次回の研究会を4月東芝のCO₂技術の講演を予定する。 ・各学科の先生方との協力事項について経過報告があった。
平成26年度 第1回幹事会	4月14日(月) 18:30~20:00	・(1)総務部会から、①ニュースレター特集号の制作者をニシキ印刷に決定したと報告があった。②二次試験合格者に入会案内を郵送した。 ・(2)企画部会から、①総会時の記念講演の講師が入院のため、副学長加藤俊一先生に交替する報告があった。②テクノロジー懇談会を4月9日予定ですすめている。 ・(3)広報部会から、①ニュースレターvol.22(特集号の進捗状況が報告された。表紙がカラーとなり見栄えが良い体裁となっている。 ・(4)大学支援部会から、「二次試験ガイダンスの参加者状況について報告があった。 ・「CO₂環境対策技術研究会」から、①4月18日、(株)東芝火力プラント技術部鈴木健介氏を招いて、「CO₂分離回収活用等の将来展望と課題」という演題で講演会を開催する報告があった。・学生企業選手権大会で電気電子情報通信学科の学生がグランプリを獲得した。当会は側面支援していく。
平成26年度 第2回幹事会	5月7日(水) 18:30~20:00	・(1)総務部会から、①総会の準備について報告と任務依頼があった。②総会提案事項について確認した。 ・(2)企画部会から、ニュースレター特集号の中大法曹会の原稿が間に合った報告があった。 ・(3)広報部会から、①サーバーの運営報告があった。②ニュースレター特集号の原稿を5月2日ニシキ印刷に渡した。③ニュースレターの発行予定と編集担当者が発表された。 ・(4)大学支援部会から、「二次試験ガイダンスの状況について」報告があった。 6月中旬から「科学技術と倫理」(1年生対象)の講義が始まる。 ・「CO₂環境対策技術研究会」から、①4月18日、(株)東芝火力プラント技術部鈴木健介氏を招いて、後楽園キャンパスで講演会を行った報告があった。次回以降の研究会予定について説明があった。

■ 部会報告

○広報部会

項 目	内 容
サーバー運営	メーリングリストおよびWeb名簿のメンテナンス実施
ニュースレターの発行	① ニュースレターvol.22(中大技術士会創立10周年記念号)の作成および発行。ニュースレター初の冊子として作成し会員および関係者に配布 ② ニュースレターvol.23作成、発行 ③ ニュースレターvol.24以降の企画、担当者の見直し

項 目	内 容
HP 新規掲載	① ニュースレターvol.21、vol.22 ニュースレターvol.22 は記念号をカラーで閲覧できます。 ② 第 4 回テクノロジー懇談会開催案内 ③ 第 10 回定時総会の開催案内、総会、創立 10 周年記念式典の様子 ④ CO2 環境対策研究会第 19 回研究会開催案内 ⑤ 役員の人事異動に伴い幹事構成を修正、三役等名簿 ⑥ 初代会長からのメッセージおよび 2 代会長からのメッセージ ⑦ 会則の変更
会員の皆様へのお願い	①就職、転勤、転職、転居等により連絡先が変更になった場合、幹事会宛てにご一報をお願いします。詳細はホームページ「入会のご案内」をご参照ください。連絡先：toiawase@chuo-u-pej.org ②ニュースレターへの会員の皆様らの投稿をお待ちしています。 近況報告、受験体験談、2020 年東京五輪への期待、何でも構いませんので、積極的な応募をお待ちします。

○総務部会

項 目	内 容
名簿の管理	3 月の合格発表後、二次試験合格者に加入案内を送付 二次合格者 52 名中 17 名加入（4 月 14 日時点）
会計管理	3 月 31 日、平成 25 年度会計の締切
第 10 回定時総会	過去 5 年の加入者を中心に DM 発送 延べ 60 名の参加（講演会、懇親会含む）で盛会に終了。
ニュースレター特集号	印刷会社に手配、総会後は各部署に配布した。 （全会員、教授会、学生会など）
振替口座開設	ニュースレター特集号に添付。一般会員から寄付の振り込みを頂きました。御礼申し上げます。
ガイダンスの日程調整	各学科の教授にお願いし、技術士ガイダンスの日程を調整。

○大学支援部会

行事	日程	内容
「技術者倫理」講義への講師派遣の打ち合わせ	9 月中（予定）	これまで、前期必修科目で 4 年生に講義を行ってきた。アンケートで、就職活動中の 4 年生には、負担が重いとの要望で、本年度より後期に講義を行うこととなった。
技術士 1 次試験ガイダンス （詳細は、活動報告にて）	6 月中旬 （一部、1 月に実施済み）	各学科の先生の授業の時間 15 分程度を借りて、技術士 1 次試験の内容説明、申込書を合計 1,300 部配付 （表 1 参照）
「科学技術と倫理」講義	6 月 3、10 日（火） 場所： 5233 教室 18:00～19:30	全学科 1 年生対象の選択科目 （表 2 参照）

表 1. 技術士一次ガイダンスの日程（敬称略）

日付	曜日	学科名	中大技術士会担当者	学生支援
1月11日	金	物理学科	坂林、林、大塚	1名
6月2日	月	人間総合理工学科	坂林、林、藤森	2名
6月6日	金	情報工学科	坂林、林、藤森	1名
6月11日	水	情報工学科	坂林、林、藤森	1名
		経営システム工学科	坂林、林、藤森、染谷	2名
		精密機械工学科	坂林、林、藤森、國島、篠崎	1名
			坂林、林、藤森、國島、篠崎	1名
6月12日	木	情報工学科	坂林、林、藤森、染谷	1名
		都市環境学科	坂林、林、藤森、内藤、武安	2名
			坂林、林、藤森、内藤、武安	2名
6月13日	金	数学科	坂林、林、藤森	2名
6月16日	月	応用化学科	坂林、林、藤森、加藤、金川	1名
6月18日	水	電気電子情報通信	坂林、林、藤森、中尾	2名
6月20日	金	生命科学科	坂林、林、藤森、加藤、内藤	3名

表 2. 平成 25 年理工学部 1 年生「科学技術と倫理」概要

回	月 日	講師名	テーマ	キーワード
第 8 回	6 月 3 日	武安 真児	情報技術と技術者倫理	情報技術者の倫理、個人情報流出、ソフトウェアの品質
第 9 回	6 月 10 日	國島 旭	技術者倫理と管理、マネジメントについて	自律した倫理、欲求と性格、品質とプロジェクト、ISO9000、PMBOK

授業時間は、第 6 時限：18:00～19:30 場所:5233 教室

○企画部会

項 目	内 容
中大技術士会 H26 第 1 回講演会 (中大技術士会定時総 会後の創立 10 周年記 念講演として実施)	日時：2014 年 5 月 31 日（土）15:30～17:00 会場：後樂園キャンパス 3 号館 10 階大会議室 講師：中央大学副学長・理工学部経営システム工学科 加藤 俊一教授 講演：「人間の感性を測る一人の多様性と生活を楽しむ技ー」
第 4 回テクノロジー懇 談会	日時：2014 年 4 月 9 日（水）18:00～ 会場：後樂園キャンパス 3907 号室 講師：理工学部電気電子情報通信工学科修士 2 年 高橋勇貴さん 講演：「Sequence Robot の提供 ～行列革命～」
第 5 回テクノロジー懇 談会	日時：2014 年 6 月 18 日（水）18:00～ 会場：後樂園キャンパス 3907 号室 講師：篠崎 博文 幹事 講演：「理工学技術と介護、リハビリについて」
学員会他支部との交流	①法曹会総会後の懇親会 日時：2014 年 5 月 21 日（水）19:00～ 参加者：金川会長、内藤副会長、林幹事長 ②公認会計士会総会後の懇親会 日時：2014 年 6 月 20 日（金）19:00～ 参加者：内藤会長、林幹事長、加藤幹事

■ CO2 環境対策技術研究会

本研究会は、地球規模の課題となっているCO₂対策について勉強しつつ、大学、企業等が持つCO₂対策に関係する技術の相互利用、或いは技術の移転や共同研究を円滑に進めることを目的としています。なお、本研究会は8月から翌年の7月を1期としています。本号では前号（2013年1月30日発行）以降の活動内容・予定を報告します。

詳しい報告は本会HP（<http://www.chuo-u-pej.org/>）をご覧ください。

CO2 環境対策技術研究会活動報告

行事名	開催日程	活動概要
H25 第3回幹事会 参加者 7名	H26年2月27日（木） 18:30～20:00 中央大学後楽園校舎	第18回研究会の報告 第19回研究会の企画 話題提供：村上会長「農薬・添加剤の簡単な落とし方 野菜編」
第19回研究会 講演会参加者 26名 交流会参加者 11名	H26年4月18日（金） 中央大学後楽園校舎 3300 講演 18:00～19:30	講演：「CO ₂ 分離・回収・活用等の現状と将来展望並びに課題」 講師：(株)東芝 鈴木 健介様 交流会：19:45～21:00 後楽園「風我」
H25 第4回幹事会 参加者 6名	H26年4月24日（木） 18:30～20:00 中央大学後楽園校舎	第19回研究会の報告 第20回研究会の企画 第19回研究会報告を話題提供として、研究会の今後の進め方について審議
H25 第5回幹事会 参加者 4名	H26年6月12日（木） 18:30～20:00 中央大学後楽園校舎	第20回研究会の応募状況 第6回報告会の企画 前回幹事会の議論を踏まえて、研究会の今後の進め方について審議

活動計画

以下に今後の本会の活動計画をご案内します。皆様、奮ってご参加ください。

■ 活動計画全般

○幹事会

次回幹事会は、7月31日（木） 駿河台記念館

○企画委員会

企画部会活動計画

行事	日程	内容
ホームカミングデー	10月26日（日） 多摩キャンパス	無料生活相談会として出展する予定
理工白門祭	11月1日（土）～3日（月） 後楽園キャンパス	無料技術相談会として出展する予定

行事	日程	内容
第6回テクノロジー懇談会	2014年9月以降予定	
中大技術士会 H26 第2回講演会	2014年10月頃予定	
中大技術士会 H26 第3回講演会	2015年1月頃予定	
法曹会との交歓会	未定	中大技術士会が幹事担当のため、中大技術士会で企画する
公認会計士会との交流会	未定	

○大学支援部会

行事名	開催日程	活動概要
技術士第一次試験 模擬試験	9月27日(土)	学生の希望者を対象に1次試験合格に向けた模擬試験を行う
「技術者倫理」講義	後期授業 10月1日～1月14日	4年生を対象に14人の技術士が、これまでの経験を元に1コマずつ講義を担当する

OCO2 環境対策技術研究会 活動計画

行事名	開催日程	活動概要
第20回研究会	H26年7月17日(木) 14:00JR京葉線新木場駅集合 見学・説明 15:00～17:00	有明興業(株)若洲工場及びリサイクルポートの見学 交流会: 17:30～19:00 新木場駅周辺で計画
H25 第6回幹事会	H26年7月24日(木) 18:30～20:00 中央大学後楽園校舎	第20回研究会の報告 第6回報告会の企画 H25 活動報告、H26 活動計画 H25 会計報告、H26 予算
第6回報告会	H26年9月20日(土) 14:00～17:00 中央大学後楽園校舎	講演: 村上会長／大石副会長／林幹事 交流会: 17:00～18:30 後楽園周辺で計画

■ その他 各学科との協力事項 (CO2 環境対策技術研究会を除く)

○平成26年度「低緯度太平洋ソーラーセル帆走筏発電システムの成立性」研究への参画

中央大学理工学部都市環境学科・國生教授が取り組まれている標記研究に中大技術士会から12名が客員研究員として参画しています。

・研究会 平成26年7月7日(月)

千代田化工建設の岡田氏をお招きし、「水素エネルギーの大規模貯蔵輸送システムと水素サプライチェーン構想」について講演を予定しています。

皆さん、こんにちは。今回、このニュースレターの編集を担当しました幹事の小柳です。投稿していただいた皆様、会へのご理解とご協力ありがとうございました。この場を借りて、御礼申し上げます。

さて、編集しているうちに、技術士資格について改めて感じるがありました。そこで、この機会に私自身の体験談と技術士資格に対する思いを綴り披露いたします。

■ 「町工場社長の技術士取得奮闘記」：小柳拓央（総合技術監理、金属）

自己紹介

私は、平成21年度に金属部門、23年度に総合技術監理部門を取得しました。これまでの経歴は、平成4年に土木工学科を卒業し、5年ほど車載機器メーカーに勤務しました。その後、家庭の事情もあり、平成9年に家業に入り、12年に社長である父親の急逝で、後継者となりました。現在、東京スカイツリーのある墨田区で金属製品の塗装工場を経営しています。



技術士を目指した経緯

都内で墨田区は、大田区に次いで町工場の多い地域です。しかし、長年の不況もあって、今では事業者数は、ピーク時の3分の1程度になってしまいました。少なからず、当社も影響を受けています。閉塞感を感じながら、40歳になる年に「このままでは、先が見えてしまう。不惑の四十というが、そういう自分になれるのであろうか？何か強みになるものを持たなければ...」と考えていたとき、心の片隅にあった技術士資格を、ふと思い出しました。

これまでの技術士に対するイメージは、建設関係の受注要件資格、工業試験所の先生など、役割に固定観念がありました。しかし、改めて資格の内容を調べてみると、町工場の経営者でも生かせることが分かりました。

技術士は名称独占の資格、称号です。裏を返せば、やれる仕事は、自分の裁量で何をやってもよいのです。私は、技術士という信用を仕事に生かし、また「この先、何かあっても、絶対に這い上がってやる」という自信とお守りを得るために、技術士取得を決意しました。

技術士取得に向けて

目指したのは「金属部門の表面技術」です。理由は、金属製品の塗装を扱っているからです。また、会社のある墨田区は、金属製品を扱う工場が多い地域でもあり、地域の連携にも役に立てると考えました。土木工学科出身の私にとって、金属の専門知識の修得は、ほぼゼロからのスタートです。改めてテキストから知識を得るのは難しいと感じました。そこで、逆に実務に主眼を置いて、普段扱う金属製品が、どんな素材・加工で製造されているのか、具体的に調べて学ぶ作戦をとりました。

技術士第一次試験対策

一次試験は、ほぼ過去問の繰り返しです。専門科目は、キーワードを理解し、マインドマップで実務と関連付けました。これは、二次試験でも役立ちました。また、過去問の文言は繰り返し使われていることに着目し、割り切って文言そのものを覚え込みました。

専門科目は、35題中、25題選択し、そのうちの15問を取ればよいわけですから、実質4割とちょっとです。なんとか、1回で合格することができました。

技術士第二次試験対策

一次試験の正解が公表された時点で合格を確信し、すぐ二次試験の準備に取り掛かりました。

この頃、世間ではリーマンショックで大変なことになりつつあった時期です。会社経営していて、この先、厳しくなると思いつつ、このピンチをチャンスに、「必ず仕留める」意気込みで準備を始めました。

しかし、早々に壁に当たりました。年内に一度体験論文を書いてみようとして過去の試験要綱を読んでいたところ、「技術士としてふさわしい業務」という指示があったのです。

「技術士としてふさわしい」とは一体何だろう？ 考えても解りません。当然です。技術士ではないのですから、仕方がありません。そこで、「技術士らしさ」を理解するためには、素直に技術士と接するのが早道だろうと考えました。

思い立ったら即行動、一次試験合格直後に日本技術士会に入会しました。ガイダンスに参加してみると、立ち上げたばかりの金属部会の若手の会の勧誘を受けました。これもご縁とチャンスです。すぐに積極的に参加し始めました。参考までに日本技術士会内では、試験機関であることから受験指導はできません。しかし、技術士らしさの追求の支援は可能です。「技術士らしさ」の追求、その一つは、技術士の前で自分が技術士らしいと考える業務や技術を具体的にプレゼンし、質疑応答することです。

私の場合、若手の会で練習して、金属部会の親会でも30人の技術士の前で1時間講演しました。筆記試験対策とは別に、これも準備が必要です。一見、大変で遠回りに見えますが、その後の口頭試験に向けて大きな自信になりました。さらに、講演を務めた後、「せっかくだから建設中のスカイツリーと、小柳さんの工場見学をしましょう。」という話になり、見学会もコーディネートさせていただきました。（写真は建設中のスカイツリーです。）

実際に15名が当社に見学に来られて、いろいろと質疑やアドバイスをいただきました。こうして技術士と接しているうちに、「技術士らしさが」自然と身についたと思います。

おかげさまで、いろいろな方のご支援もあって、何とか無事に一次、二次試験と1回で合格することができました。

技術士に合格してから

技術士試験に合格して登録すると、登録証が来てそれで終わりです。自ら行動しなくては、何も変わりません。技術士活動の手始めとして、合格体験談の講演や投稿などから始めました。

アウトプットが重要です。それを見た人と、どこでご縁を頂くか分かりません。日本技術士会で講演したことで経歴を知った中大OBの技術士から、この中大技術士会へのお誘いを受けました。そのご縁で技術者倫理の講師を務めさせていただくに至っています。

また、講師の件を知った日本技術士会の広報委員から、月刊技術士への技術者倫理に関する投稿依頼があり、寄稿しました。不特定の方が見るドキュメントの効果は大きいです。これがきっかけで、生業の塗装業界や地元地域でも、技術士として関わるようになりました。

これから受験する方へのアドバイス

1つアドバイスするならば、受験動機は非常に重要です。「何のために技術士になるのか？」口頭試験でも必ず聞かれます。また動機は試験に対するモチベーションの維持にもつながり、その後の技術士活動の方向性にもかかわります。

技術士制度の存在意義は、「科学技術の向上と国民経済の発展に資することです。」本音は、「稼ぐため、食べていくため」に必要でしょう。しかし、ストレートに言うものでもありません。私



も技術士を目指し、技術士と接していくうちに、徐々に考えが変わり、「塗装業界の発展のため、金属加工の多い地元地域への貢献のため、子供の世代に良い環境を遺すため」と考え、公言するようになりました。その姿勢が口頭試験でも試験官にご理解いただいたと思います。

技術士になられた方なら、皆必ず受験動機があります。これから技術士を目指す方は、是非、ご自分が技術士になった時の姿をイメージし、強い動機を作り上げてください。

おわりに（若い技術士、これから技術になる方へ）

技術士資格は、例えるなら旅券のパスポートのようなものです。ただパスポートを持っているだけでは、遠く外国の素晴らしい景色を“自分の目”で見ることにはできません。パスポートを持って、自分で行動してはじめて、素晴らしい景色を見ることができます。行動するには、多少なりとも時間や労力が必要です。しかし、それができるのが技術士です。

技術士資格は、いろいろな世界（業界）の人と会うためのパスポートになり得ます。しかし、ただ会ってもらっただけでは、仕事などのご縁は繋がってゆきません。自分がどういう人間で、どんな能力があるのか知ってもらうアウトプットの努力も必要です。実は、このエッセイもその一つです。私は、技術士になって改めてそれを実感しました。

皆さんが将来見たい景色は何でしょう？ 是非、技術士資格を人と会うためのパスポートとして使って、自分の世界を広げてください。この体験談が一人でも心に響いて、お役に立つならば幸いです。

以上、

技術士第二次試験合格者から

このコーナーでは、技術士二次試験合格者の方に受験の動機、勉強方法、技術士になってからの抱負、後輩へのアドバイスをいただいています。

今回は、この春、二次試験を合格されました小田部さんから寄稿いただきました。

■ 「受験体験記」：小田部信彦さん（電気電子部門）

1986年に電気工学科を卒業して、総合建設会社（ゼネコン）に入社しました。

入社後、電気設備設計を行っています。ビルの変電設備、幹線設備、電灯、コンセント、LAN、電話、セキュリティ、防災などの設計、施工監理をしています。業務関連の資格は、幾つも取得してきました。その中で、一級建築士は予備校に通い苦労して取得しました。

技術士は、以前から挑戦していたものの、縁がなく少し諦めていましたが、50歳になり、定年後の転職を考えるようになり、もうひと頑張りすることにしました。

技術士の試験は、10年以上前に、受験した時は、電気・電子・情報全般の設問があり、専門外についての回答に苦慮しましたが、最近は、業務内容に近い内容の設問が多くなり、筆記の枚数も減り少し受験し易くなったと思います。

筆記試験対策：

回答用紙のマス目に近い、方眼ノートに回答を書く練習をしました。

テーマは、過去問と、電気設備学会誌の記事より探しました。回答時間を測りながら、鉛筆で書きました。電車の中では、同様にテーマを設定して、スマホのメモ帳に打ち込みました。何度か読み直して修正しました。

文章に詰まって書けない所は、ネットで調べて、引用して回答を作りました。

筆記試験時：

回答に際して心掛けたことは、設問に対して記述すべきキーワードを 4～5 項目あげることです。キーワードは、比較項目や展開の中で必要なキーワードです。

そのキーワードを展開して文章をまとめました。

文字数の制限を意識して、ただ升目を埋めるだけでは、加点されません。

結論では、技術士の立場である、コンサルタントとしての自分なりの見解を書くように心掛けました。

面接試験対策：

本を買って、過去問の答えを口に出して練習しました。

会場は、渋谷のビルなので、事前に下見に行きました。面接試験時に待っている廊下まで入れるので雰囲気はつかめました。

面接試験時：

語尾に注意して、断言する場合と、意見や感想を述べる場合と分けて答えました。また、間違えた答えをしてしまい、面接官に指摘されました。その際は、素直に間違いを認めました。

面接時間は、昨年より短くなりました。その分、短時間に簡潔に答えるように心掛けました。

最後に：

どんな資格でも、合格すると自信になります。また、合格後にその資格に関する仕事をする際には、責任を感じて更に勉強するようになりました。

これから技術士を挑戦される方は、明日の自分のために頑張ってください。また、技術士をはじめいろいろな資格に挑戦してください。

以上

技術士第一次試験合格者から

このコーナーでは、技術士一次試験合格者の方に受験の動機、勉強方法、技術士への思い等について書いていただきます。今回は、昨年一次試験に合格した修士2年の出雲さんを書いていただきました。

■ 「技術士第一次試験を受験して」：出雲 沙織さん（化学部門）

皆様初めまして。理工学研究科応用化学専攻、修士2年の出雲沙織と申します。現在は環境化学研究室で微小粒子中の微量元素を測定する新手法の開発を行っております。

修士1年の時に技術士第一次試験を化学部門で受験し、合格しました。今回は合格体験談のお誘いを頂き、受験のきっかけ等をお話させていただきます。

1. 受験の動機

学部3年次の時、授業の中で技術士に関するガイダンスがあり、その時に初めて「技術士」という資格を知りました。

そして、学部卒業の時に、学部を卒業すると得ることができる「学士」といった称号以外に、大学院では勉強に取り組んできたものを形にできるような資格を取りたいと思いました。その時に学部3年次に受けたガイダンスを思い出し、就職活動を控えていたので、就活にも有利な技術士1次試験を受験しようと考えました。

2. 試験に向けた準備

準備にかけた期間は 2 カ月ほどです。当時は修士1年で、就職活動や国際学会も控えていたため、やや長めに勉強の期間を設定し、インターンシップや研究と並行しながら、無理のない範

囲で勉強していました。

私が受験した 2013 年度から試験の制度が変更になり、共通科目が廃止され、基礎科目の範囲が拡大されました。そのため、基礎科目は新範囲を確認した上で学部時代の物理や情報の教科書を復習しながら対策を行いました。学部時代の教科書で分からない点は図書館を利用して調べ、過去問を解いて実践していききました。

適性科目に関しては参考書を購入し、基礎の部分を勉強していききました。細かい部分を調べる際はインターネットも活用していききました。適性科目については制度の変更によって難化するのではないとも言われていたので、分野ごとにリストを作り、しっかりと対策していききました。

専門科目については、技術士のホームページから過去6年分の過去問を解きました。特に苦手意識が強かった有機化学の分野については学部時代の試験問題を解き直し、基本的な反応について復習しノートにまとめて行きました。出題範囲が多岐にわたるため、学部1年生の頃のノートも十分に役に立ちました。

3. 受験をした感想

適性科目は予想通り難化していて、解答が技術士の HP に掲載されるまでは若干不安な気持ちもありました。結果的には合格することが出来ましたが、分野ごとに対策を行っておいて本当によかったと思います。専門科目、基礎科目については過去問をきちんと解いておいたお陰で、落ち着いて当日も臨むことができました。

また、会場内に 10 歳にも満たないような小さな受験生もいて、非常に驚いたことも覚えていきます。

4. 二次試験合格に向けた抱負

二次試験を受験する際は 4 年の実務経験が必要になるため、まだ受験をするまでには時間があります。この期間中にさらに幅広い分野の知識を吸収し、応用していくことで経験を積んでいきたいと考えています。

以上.

ニュースレターへのご意見、ご感想をお待ちしています。 ⇒ toiawase@chuo-u-pej.org
2014 年 7 月号 中大技術士会 広報部会 発行
中大技術士会ホームページ： <http://www.chuo-u-pej.org/>